

---

報告者名	政岡 伸洋	被調査者生年	1963年(男)
調査者名	政岡 伸洋	被調査者属性	高台移転代表者
補助調査者	丸山 和央		

---

### 高台移転

波伝谷の高台移転の候補地は現在、部落内では坂本の山側のサダミネと神社東側の松崎跡地の2か所あり、それ以外に個人で家を建てるといふ人が数軒、また南三陸町で準備するゴルフ場跡地の復興住宅に移るといふ人もいふ。周辺の部落は、すべて1か所であるが、波伝谷は75軒ほどあったので、最初は1か所だといふていたが、結局2か所となり、役場と交渉して現在のように決まった。しかし、分かれたといふても工事は一緒にといふ方針があり、一方で決まっても、もう一方で決まらなければ工事ははじめられない。また、海の仕事をやる人と会社員は生活のサイクルが違ふので、陸前高田のように分けた方がいふのではないかなど、さまざまな意見も出されていふという。2か所のうちどちらを選ぶかであるが、だいたい震災前に家のあった場所に近い方にする傾向があるよふである。規模は、松崎跡地の方が大きいのはどのことであつた。

高台移転に関して、土地や建物は自己負担で、水道や電気の整備はやってもらえることになつていふ。これには、契約講は関与しておらず、サダミネに移転を希望する者の中から2名、松崎跡地に移転を希望する者の中から4名の代表者が選ばれ、行政との折衝や内部の調整を担当していふ。選出方法であるが、サダミネの場合、そういう雰囲気もあつて、自分から引き受けることになつたよふである。

サダミネの方については、2012年のお盆のころに希望者で場所を見学した。最初は、4か所ぐらい候補が出ていふ。そしてみんなで見て回り、その時の希望者全員分の家が建ちよふな広さがあるといふことで、最終的に場所が決まった。11月23日に話し合ひを持ち、ある程度決まったといふが、それでも迷つていふ人も多い。

といふのは、たとえば50歳くらいであれば、気に入らない場合、別の場所に建て直すことも可能であるが、70歳以上になるとこれが最後になるので、慎重にならざるを得ない。特に、移転時期が遅れる可能性が高く、5年、10年後に家を建てるとなると、高齢者は70歳、80歳になるので、後継者がどうなるかわからない家では町の復興住宅にするか迷ふといふ例もある。そのため、若い世代は早く建てたいといふ人が多く、話者も娘さんがおられるが、今の仮設では狭いので、お嫁に行くまでには建て、新しい家から送り出してあげたいと思つていふ。

また、各自がそれぞれで家を建てていふので、集団で入ることに戸惑ひを持つ人や、ベイサイド・アリーナ近くの商工団地みたいになるからといふて実際に現地を見に行つた人が、やはりどうするか迷つてしまつたといふ例もある。

また、昔、波伝谷では本家が土地を譲つてベッカ(別家=分家のこと)を出すといふ慣習があつたが、高台移転では実際はいったん買い上げてから各自が買うことになつていふにもかかわらず、昔のことをよく覚えていふ人は、移転先が波伝谷内の地主の土地であつたといふことで、この記憶と重ねてしまひ、抵抗を感じる例もあるよふである。

11月23日の話し合ひで、ある程度参加する家は決まり、役場に届けたが、その後は連絡もないよふである。役場の方針としては、最終決定してからといふことのおよふであるが、時間がかかる分、余計に迷ふ人も出てきて悪循環のよふになつていふ。

それでも、サダミネの方では、調査当時、すでに場所も決まり地主の了解も得て、測量しようといふ段階に来ていふ。高台移転の造成までもう少しであるが、それでも次の問題がある。それは、移転先で誰がどの場所に入るか

という点である。11月23日の話し合いでは、抽選で良いのではという話も出たが、そう簡単ではない。今まで一軒家でやってきたわけであるから、端の方がいいとか、前や後ろ、また価格等それぞれの希望があり、これをどうするか、みんなで話し合う必要がある。

また、移転後についても、高台ということで、お年寄りが海岸に降りるのに、非常に不便になる。国道398号線もかさ上げするので、車があればよいが、ない人はリアカーを使うなどしなければならないし、作業の合間にご飯を食べに帰ったり、ちょっとした片付けも難しくなる。さまざまな問題が考えられ、これらをどうするかも考えておく必要があるという。

### アワビ・ウニの開口

ウニの開口は、2011年は船も津波で流されてしまい、できなかった。しかし、2012年の夏は、役員10人ほどが集まって、他所ではやってるが波伝谷はどうすべきか話し合うことになった。そこで、まだ個人の船はないので、それでは「がんばる漁業」（がんばる養殖のこと）に参加している人がその船を利用していって行くことになった。まず、大きくなりすぎて黒くなり売り物にならない大玉の駆除を行った。そして、ウニ漁を1回だけ行ったが、とってきたウニは行っても行かなくても1軒当たり30個ずつぐらいに分けたそうである。

またアワビの開口も今年から行くことになった。本来は、だいたい12月までで、あまり漁ができなかったときは1月にやることもあったが、今年は11月と12月に行い、このうち12月に入ってから2回やった。去年・今年と稚貝を放流しておらず、アワビは少なくなっているといっていたが、たくさん採れた。船は注文した8割が来たが、登録に時間がかかっており、結局は行かなかった人もいた。10軒ほどが「がんばる漁業」の船を借りて、乗り合いで行った。なお、ここで使用する箱メガネは、波伝谷にいる大工さんに頼んだりボランティアの人に作ってもらったりした。この開口は、「がんばる漁業」とは違って、とったものは自分のものになる。ちょうど夏と冬のボーナスのような感じになったという。



写真1 松崎跡地の移転予定地（向かいの斜面）